山口大学日本語・日本文化
サマープログラムの改善を目指して
- 2012 年チューター学生対象アンケート分析結果を基に -

中　溝　朋　子

要旨

本稿では，2012 年 7 月より行われた山口大学日本語・日本文化サマープログラムに参加した日本人チューター学生の終了時アンケートを基に，学生交流の当事者であるチューターが①留学生との交流をさらに進めるために必要と考える改善点，また②実際に交流を行って感じたこと，特に異文化理解や国際交流について考えたことを調査・分析し，プログラム改善の手がかりとなることを目的とする。結果として，①については(1)開始後早い時期にできる限り全員参加可能なイベントなどで交流を実施すること，(2)個人で自主的に行える交流の具体的なアイデの例，および(3)チューター制度やチュートリアルの方法などについてのいくつかの提案があり，②については，留学生の積極的な学習姿勢や語学力への驚き，今後の語学学習等への意欲や希望を述べる記述，チューター同士も含めた交流を通じて得られた経験の貴重さや自身の姿勢や考え方に関わる言及が多く見られた。本調査で得られた結果を生かし，今後のプログラム改善に役立てて行きたい。

キーワード

山口大学日本語・日本文化サマープログラム，チューター，チュートリアル，異文化交流

1　はじめに

山口大学日本語・日本文化サマープログラム（以下，「サマプロ」）は，2010 年より実施され，2012 年で 3 回めを迎えた。本サマプロは，主に協定校から参加留学生を募り，日本および山口の社会や文化への理解を深めるとともに，日本語運用力の向上などを目指している。

このような 1 カ月程度の短期留学のプログラムは多くの大学で行われており，各大学の日本人学生との交流も活発に行われている（久木 2012 他）。本学のサマプロでも参加留学生は多くの日本人学生と交流するが，その中心はチューターとして参加する日本人学生（以下，「チューター」）である。後述するように，チューターは，参加留学生に対するチュートリアルの実施をはじめ，文化体験や見学などの活動におけるサポート役として，教員不在の場で留学生と交流することが多く，プログラム運営上も学生交流という点からも本サマプロにおいて大変重要な役割を担っている。

2012 年のサマプロでは，結果としてこのチューターの日本人学生が，大変意欲的，かつ熱心に参加し，充実した交流活動が行われたと考える。そこで本稿では，このようなチューターの目から見た本サマプロの評価や改善点，特に学生交流の当事者であるチューターが①留学生との交流をさらに進めるためにどのような

改善が行われると良いと考えるか,また②実際に交流を行って何を考えたか,特に③異文化理解や国際交流について何に気づき,何を学んだと感じたかを,サマプロ終了直後に実施したアンケートを基に検討する。

2 2012 サマープログラム概要,およびチューターについて

2.1 2012 サマープログラム概要

2012 年サマプロは,主に協定校から募集した参加留学生[注1]を対象に,7 月から 4 週間にわたって行われた。以下表 1 に概要を示す。

表 1 2012 年 サマプロ概要

期間	2012 年 7 月 10 日(火)~8 月 6 日(月)
参加者人数	計 38 名
出身国・地域内訳	台湾 20 名(含香港 2 名),中国 6 名,タイ 4 名,イギリス・タイ各 3 名,スペイン・トルコ各 1 名
時間数	計 135 時間
	開講式・オリエンテーション 2 時間 日本語(学習成果発表会,その準備を含む) 44 時間 文化体験(茶道等) 12 時間 チュートリアル 21 時間 見学・研修旅行 22.5 時間 ホームステイ 25.5 時間 オープン・キャンパス 3 時間 自律学習 5 時間

本サマプロでは,原則として午前は日本語の授業(学習成果発表会準備を含む),午後はチューターによるチュートリアル,もしくは日本文化を体験する活動等が行われた。

日本語クラスのレベルは,渡日前の web による試験(J-CAT)の点数と渡日後の口頭試験により,初級から上級まで 4 レベルに分けた。

具体的なスケジュールは,表 2 の通りである。表中,活動名の前にある「*」は,チューターが参加する活動を表し,「**」は,チューターほぼ全員が参加した活動を表す[注2]。

表 2 サマプロ・スケジュール

日付	午前	午後
7/9(月)	*到着	*アパート案内 *買い物ガイド
7/10(火)	事務手続き	開講式/オリエンテーション/ *日本語プレイスメントテスト/ *施設案内/**歓迎会
7/11(水)	日本語	市内見学・小学校訪問説明会/**チュートリアル/ *部活動体験
7/12(木)	日本語	*チュートリアル/*部活動体験
7/13(金)	日本語	*市内見学
7/17(火)	日本語	*小学校訪問
7/18(水)	日本語	ホームステイ説明会/**チュートリアル
7/19(木)	日本語	*書道/**チュートリアル
7/20(金)	日本語	センター長特別講義/**チュートリアル/ホストファミリー顔合わせ
7/20-21	ホームステイ	
7/23(月)	日本語	**チュートリアル
7/24(火)	日本語	*マツダ自動車工場見学
7/25(水)	日本語	*茶道/**チュートリアル
7/26(木)	日本語	**チュートリアル
7/27(金)	日本語	研修旅行説明会/ **チュートリアル/狂言ワークショップ
7/28(土)	研修旅行(萩)	
7/30(月)	日本語	**チュートリアル
7/31(火)	日本語	*華道/**チュートリアル
8/1(水)	日本語	**チュートリアル
8/2(木)	日本語	**チュートリアル
8/3(金)	日本語	学習成果発表会/ **送別会
8/4(土)	オープンキャンパス参加	
8/5(日)	フリー	ゆかた着付け/ *ちょうちん祭り
8/7(火)	帰国	

またこのほかに,7 月 12 日(木)夕方には,本学の国際交流会館談話室において,チューターが自主的に企画した「お好み焼き・瓦そば(山口の郷土料理)パーティー」も行われ,参加留学生のほとんどが参加した[注3]。

2.2 チューターについて

2.2.1 チューターの役割

チューターの主な役割は,①プログラムに既に組まれている「チュートリアル」の時間の運

営・実施であり，その他，②様々な文化活動や見学旅行，および生活面でのサポートを行うことである。これらチューター活動に対しては，参加時間数に応じて謝金が支払われており，本サマプロのチューターは，①ボランティアではないこと，②役割上は留学生と「共に学ぶ」存在というよりは，留学生の学習上，生活上の様々なサポートを行う存在として位置づけられている。

チューターは，学内ポスター掲示・募集説明会等で広報や募集を行い，応募者に対し書類と面接で選考を行った。選考後は，学年，性別，これまでの国際交流経験，外国語学習歴，チュートリアルの時間に参加可能な曜日などを考慮し，各クラスを担当する 4 グループに分け（担当クラスは固定），それぞれリーダー，サブリーダーを担当教員が指名した。日々のチュートリアルの時間には，各グループから 3 名程度が担当した。チュートリアルの実施内容は，午前中に授業を担当した教員が伝達用に記録したファイルと口頭による説明（随時）によってその日の担当チューターに伝え，具体的な実施方法は，その日の担当チューターに任された。

2.2.2　チューター参加者

2012 年サマプロに参加したチューターは 23 名である。以下，表 3 にその属性を示す。

表 3　2012 年チューター属性

属性	内訳・人数
学年	1 年生 2 名，　2 年生 8 名 3 年生 6 名，　4 年生 5 名， 大学院生 2 名
学部・研究科	経済 9 名，　人文・教育各 5 名， 理 2 名　　理工（院）2 名
性別	女子 16 名，男子 7 名

このうち，2011 年に本サマプロのチューターを経験した学生は 3 名である。

3　アンケートの実施，および分析方法

アンケートは，サマプロ終了時に留学生支援課を通じて，メールで質問紙をチューターに配布し，8 月末までにメール，もしくは紙で回収した。回答者は 21 名である。

アンケートの結果はすべて電子化し，5 段階評価の回答部分はグラフ化，自由記述の回答部分については，すべての資料を電子化，1 文ごとに切片化した後コーディングを行い，類似記述について整理を行った。

以下，4 でアンケートの結果を，5 段階評価の回答部分（質問①～⑥）と自由記述の回答部分（質問⑦～⑩）に分けて述べる。

4　アンケート調査結果

4.1　5 段階評価回答部分の結果

まず質問①～⑥の回答結果を図 1～6 に示す。

図 1　参加してどうだったか

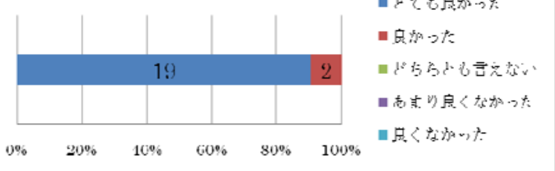


図 2　異文化理解を深めることができたか

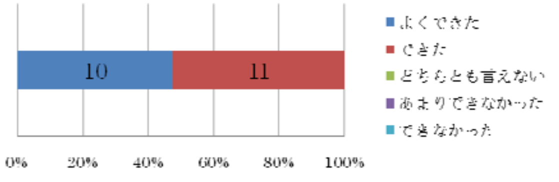


図 3　外国へ留学したいと思ったか

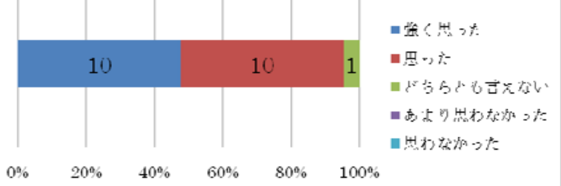


図４（自分として/自分なりに）
チューターの役割を果たせたと思うか

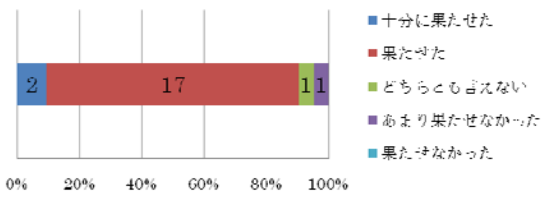


図５ 今後このようなﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑに参加したいか

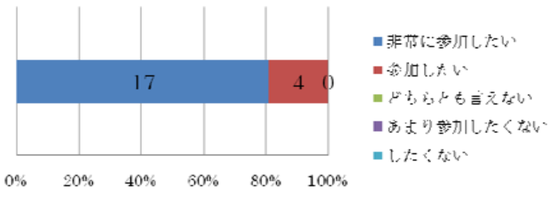
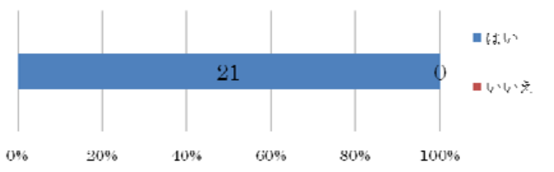


図６ 参加留学生の中に友達ができたか



この結果から，チューターとして参加した学生のすべての学生が参加して良かった，異文化への理解が深まったと感じ，多くの学生が留学への意欲も増したと感じていることがわかる。またチューターとしても，ほとんどの学生が（自分なりに役割を果たせ），今後もこのような活動に非常に参加したいと考えており，今回のサマプロですべてのチューターが留学生の中に友達もできたと感じていると総括することができる[注4]。

先述の通り，チューターは総じて意欲的，かつ積極的に本プログラムに参加しており，その結果がこのような数値に表われたものと考えられる。以下，自由記述回答の結果を示す。

4.2 自由記述回答の結果

質問⑦「チューターと留学生がさらに友達になるためにどのような工夫があったら良いか」

質問⑦に対して「イベントの開催」に言及した回答が 10 名，イベント以外の「留学生との交流」には 9 名，「チューター制度やチュートリアル」には 6 名が言及した。以下，質問⑦の具体的結果を表 4 に示す。

「イベントの開催」の中でも「研修旅行」が 4 名と最多で，その 4 名すべてが「チューター全員参加の研修旅行」と回答している。これは質問⑧の回答からも窺えるが，チューターの多くが，旅行など留学生と学外で長時間を共に過ごす活動を通じて親しくなり，理解が深まったと強く認識しているためと考えられる。研修旅行以外のイベントとしては，「スポーツ大会(O-2)」(他 1 名)や「(開講当初の）自己紹介やゆっくり話す時間(N-1)」などが挙げられているが，「もっと気軽に皆で 1 ～ 2 時間スポーツをしたりする(O-2)」にあるように，総じて学内で実施可能な比較的小規模なものが挙げられている。一方で「チューター企画(0-1)」や「留学生企画(K-2)」などの提案もあることから，プログラム開始前に新規チューターが決定した時点で話し合いを持ち，プログラム外の企画として計画を開始することで十分実現可能なものと考えられる。

また「留学生はボーノ（学生食堂の名称）で食事を取るため[注5]，時間のあるチューターは同席出来たらいいと思います(A-1)」(他 2 名）や「放課後，晩御飯を一緒に食べたり遊んだりする(I-1)」など，個人の意志で交流が可能なアイデアもある。こうした学生の自主企画や留学生に関する情報，交流のアイデアは，ぜひプログラム開始前に新規チューターに周知させ，早い時期から自主的な交流が行われることを期待したいと考える。

また，チュートリアルについては，各グループが特定のクラスを担当する点について新たな提案がいくつかあった。これは「留学生一人一人にチューターがつく(R-1)」や，「週単位で

変えてみる(H-1)」，「1,2 班，3,4 班合同チュートリアル(H-2)」などであり，実施の実現性（チューターの応募人数，経費等の問題）や具体的な実施方法を考慮しながら，今後検討していきたいと考える。

表４　チューターと留学生がさらに友達になるためにどのような工夫があったら良いか

ﾗﾍﾞﾙ	ﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ	ﾃﾞｨﾒﾝｼｮﾝ	代表的なコメント
イベント実施	時期	最初	・プログラムの最初の方で歓迎会以外に，留学生やチューター，先生方など全体で自己紹介の会などがあったらいいかなと思いました（L-1)
		週末・放課後	・週末のイベントや放課後のイベントもあったらいいなと思います(E-1)。
	参加者	チューター全員	・人数的に難しいかもしれませんが，チューターと留学生が全員参加の研修旅行が有ればいいなと思いました(J-1)
			・チューター全員が参加できるイベント(C-1)
		班ごと	・班ごとに何かのイベントを行う(C-2) ・クラス内同士でチュートリアル以外でももっと仲が深まるように会話や活動をする場を設ける(K-1)
	内容	（研修）旅行	・全員が参加できる研修旅行が有れば良いなと思いました(U-1) ・後は私自身として，今回特に萩研修旅行や花火を見に行った時一段と留学生と仲良くなれた気がしたので，そのような機会は大切だと思いました(N-2)
		スポーツ	・今回は瓦そばやお好み焼きを作りましたが，もっと気軽に皆で１～２時間スポーツをしたりするのもいいかなと思いました(O-2)
	方法	チューター主催のイベント	さらに友達になるために，チューター主催のイベントを２～３回やってもいいかなと思いました(O-1)
		留学生企画のイベント	・留学生が企画したイベントが有るといい(K-2)。
チューター制度・チュートリアル	制度	方法	・留学生一人一人にチューターがつくとより一層仲が深まり，日本語の勉強にもつながるのではないかと思います(R-1)
	チュートリアルの時間	方法	・クラスのチューターを固定にしない方が良いかもしれないと思った(S-1)。 ・担当するチュートリアルのクラスを週単位で変えてみるのも面白いと思いました。それが不可能なら，1,2 班，3,4 班合同チュートリアルなどの機会を増やしてはどうでしょうか？(H-1,2) ・日本語演習補助の時間に，チューターのボランティアでの参加を認めると交流の時間も増え，チューターの負担も軽くなるので良いかなと思いました(M-1)
		内容	・チューターの時間は宿題や課題を終わらせることに追われていたので，もっと会話をしたかったなと感じました(I-2)
留学生との関わり	話す時間	時期	・仲良くなるには初めが肝心だと実感したので，初めの歓迎会の時にでも時間を取って交流できる場をより多く作った方がいいと思った(B-1)
		内容	・初めの方に自己紹介やゆっくり話す時間を取れたらいいかなと思います(N-1)
	一緒の活動	内容	・留学生はボーノで食事を取るため，時間のあるチューターは同席出来たらいいと思います(A-1) ・放課後，晩御飯を一緒に食べたり遊んだりすると良いと思います(I-1) ・単に留学生と接する時間を増やしてほしい(T-1)

質問⑧「（文化活動等に参加した者のみ対象）特に印象に残った活動とその印象」

質問⑧については，各活動に参加したチューターの人数が異なるため単純な比較はできないが，「研修旅行（萩）」と回答したチューターが４名，「部活動体験」3 名，「ちょうちん祭り」2 名，その他，「空港出迎え」，「マツダ工場見学」，「華道」，「送別会」各１名であった。このほか，本来のサマプロの活動以外にチューター

が自主的に留学生と交流した活動も 6 名が挙げており（「ふしの川花火大会」2 名，「下関」2 名，「お好み焼き・瓦そばパーティー」1 名，「広島・宮島」1 名)，プログラム外でも積極的に留学生と交流していることが窺える。

以下，表 5 に記述式回答の結果の一部を示す。

表 5　（文化活動等に参加した者のみ対象）特に印象に残った活動とその印象

ﾗﾍﾞﾙ	ﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ	ﾃﾞｨﾒﾝｼｮﾝ	代表的なコメント
研修旅行	留学生の様子	良かった点	・萩研修旅行では普段見られない留学生の触れ合いを見ることが出来て良かったです (D-1) ・また萩散策の時に日本の歌と台湾の歌を教え合いながら歩いたこともすごく楽しかったです(O-3)
	感想	改善点	・ビュッフェはもっとチューターと留学生とが仲良く食事できたら良かったです。(D-2) ・城下町散策は事前の計画が甘かったため，暑さに負けて途中で引き返すと言う班も多かったです。(D-4)
部活動体験	留学生の様子・感想	良かった点	・私は少林寺拳法の見学の引率に行きました。部活動生ともすぐに馴染んで，とても楽しそうでした(A-1,2) ・また，部活の方々に全て任せていた分，より皆さんが楽しめていたことが印象的でした(Q-2)
		改善点	・〇〇部で，留学生もやってみたいと言っていたが，大会の前で体験することが出来なかった。もし次があるなら，体験して欲しい(T-1)
ちょうちん祭り	留学生の様子	良かった点	・お祭りに来ていた小学生たちが留学生に hello と声をかけてくれて，留学生も喜んでいました(M-4)
	感想	良かった点	・私も留学生の目線で改めて日本の祭りを楽しめてとても新鮮な気持ちになりました(M-3) ・大学内だけではなく，町でも留学生を温かく迎えてくれることに感動しました(M-6) ・私自身もちょうちん祭りに初めて参加したので，新鮮だったと言うのも有りますが，日本の文化を留学生とじかに体験出来たことはとても嬉しかったです(G-2)
空港出迎え	感想	良かった点	・日本での生活への不安や質問，週末の旅行のことなど日本語のレベルがそれぞれ違っても，最後には意志疎通が出来ることに嬉しさを感じました。(P-2)
工場見学	留学生の様子・感想	良かった点	・皆さんも楽しそうにしていましたし，日本の最先端技術を案内するのは彼らにとってもいい刺激になると思いました(H-2)
華道	感想	良かった点	・留学生と一番交流出来た時間でした。楽しかったです(U-1)
送別会	留学生の様子・感想	良かった点	・とても淋しい気持ちは有りましたが，皆さんが別れを惜しんでいる姿や，笑顔で記念撮影や話をしている姿を見ると，本当に充実した毎日だったんだなと実感しました(R-2)
自主的な活動	感想	良かった点	・留学生交流会館での料理パーティー。普段話す機会のない留学生とも話すことが出来て良かった(S-1)。
			・表面的にしか留学生について知らなかったが，この旅行を通じて深く知ることが出来たと思う(C-2)
			・国が違っても一緒にいることに特に違和感はなく，言葉をうまく使えなくても楽しめるのだなと感じました(I-4)
			・色々な質問をして来ることに本当に日本に関心を持ってくれているのだと実感し，嬉しかったし楽しかった(K-4)

質問⑨チューターをやって難しかったところ

質問⑨については,「コミュニケーション(英語を含む言葉の問題，意志疎通など)」(9 名)，「(チュートリアルの時間の)『日本語』に関す

る説明・質問への対応」(8 名)，「留学生への対応（留学生同士の人間関係を含む)」(6 名)などを挙げたチューターが多かった。以下，質問⑨の結果の一部を表 6 に示す。

表 6　チューターをやっていて難しかったところ

ﾗﾍﾞﾙ	ﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ	ﾃﾞｨﾒﾝｼｮﾝ	代表的なコメント
異文化	時間の感覚	時間を守る	・留学生を時間通りに行動させる点(T-2)
			・国々で時間の感覚が違うことは知っていましたが，実際経験してみると，その違いは日本人にとってはとても大変でした(G-7)
コミュニケーション	言葉の壁	何語で話すか	・様々な国から来られていたので，何語で話せばいいのか，初めは悩みました (G-3)
			・英語を使ってみましたが，英語が出来ない留学生もいて，どうすれば伝わるのか，結構困りました(G-4)
		チューターの英語力	・２班のチューターをやっていて，学習成果発表会の発表練習をさせる時に，アドバイスがしたくても日本語では難しすぎるし，英語は出来ないと言った状態に(H-3)
			・易しい日本語で説明することも大切ですが，留学生の中には英語が話せる人も多く，私もチューターの際にどのような英語が役に立つのか勉強していけばよかったと考えます(R-2)
		意志の疎通	・時間がたつにつれ徐々に意志の疎通が出来るようになって来ましたが，初週は特にその点で苦労しました(B-3)
			・後は，こちらの伝えたいことを正確に理解してもらうこと，また，相手の伝えたいことを読みとることは，特にあまり日本語が得意でない留学生を相手にした時，とても難しいことだと感じました(N-2)
	話しかける	最初のコミュニケーション	・やはり最初に話しかけたりコミュニケーションを取ろうと試みるのはとても緊張し，勇気がいることでした(N-1)
		母語話者同士の会話	・母国語が共通している留学生同士が母国語で話すと，なかなか話に入れなかったり，そういう留学生の姿も見えた(K-2)
チューター活動	チューター同士の協力	事前の準備	・チューター同士，協力することが難しかったです。事前に会って話しあえる場があれば，全員参加型のより良い物が出来たのではないかと思います(Q-1,3)
	留学生への対応	留学生同士の人間関係	・○○（国籍）などあまり参加者の人数がいない国の留学生が，どうしても少し馴染みにくそうにしている場面があった気がして，そんな時にどのように対応したらいいかなと少し悩みました(O-2)
			・最終発表の準備の時に，３人のグループの２人が同じ出身国で一人が別の国からのグループで，２人が自分の国の言葉で話して準備を進めていき，残りの一人が言葉がわからず，発表の準備に参加できていないという場面があったので，日本語で話すように促すことが難しかったです(P-1)
			・チュートリアルの後半になると皆慣れてき，また宿題の多さで教室の中に倦怠感が生まれてきました。そのため，チュートリアルの際は会話を増やし，少しでもみんなが楽しめる空間を作ることに注意していました(A-1，2)
		留学生への接し方	・また，クラス全員と均等に接したいと思っても，話しやすい留学生についてしまったり，特定の子につきっきりになったりしてしまうことがありました(D-2)
		日本語の説明	・テキストやプリントの問題で，日本人なのに分からない所がありました(I-1)
			・日本語の微妙な言い回しや，接続語の違いなど，言葉について分からないことを聞かれた時，説明するのが難しかったです(U-1)
			・チュートリアルの時に質問を受けて，なぜこの答では駄目なのかと聞かれたこと(C-1)
	自分の勉強の必要性	日本語	・また，日本語の指導においては，自分が当り前だと思っていることのむずかしさを感じることも出来ました(U-2)
			・自分で正しいと思っていたことでも，実は間違っていたりするので，自分

			でも日本語を勉強しないといけないと感じました
		・日本文化	・日本語の授業の時に，日本の神社での作法について，その理由を聞かれた時に，国際交流をするうえで日本文化を知っておくことも必要であると痛感させられました(J-1)
	運営	時間の使い方	・また，学習内容を終えた残り時間を有意義に使えなかったのが残念です(D-3)

まず「留学生への対応」についてであるが，チューターは「話しやすい留学生についてしまったり，特定の子につきっきりになったりしてしまうことがありました(D-2)」といった自らの留学生への接し方ばかりでなく，「参加者の人数がいない国の留学生が，どうしても少し馴染みにくそうにしている場面があった（O-2)」，「(発表会準備で)２人が自分の国の言葉で話して準備を進めていき，残りの一人が言葉がわからず，発表の準備に参加できていないという場面があった(P-1)」，「チュートリアルの後半になると皆慣れてき，また宿題の多さで教室の中に倦怠感が生まれてきました(A-1)」など，すべての留学生が快適に交流できるよう，留学生みんなの雰囲気作りや動向に苦慮していたことがわかる。一方で，こうした発表会の準備活動，課題の多さなどは，教員が注意，配慮することで，チューターの負担が軽くなると思われる。今後は開催中の教員とチューターのコミュニケーションを増やして問題を共有していくことでチューターの負担も軽減されると思われる。この問題も含め，「日本語」については，質問⑪の結果とともに後述する。

質問⑩「日本語を習得しようとしている留学生を見て感じたこと」

質問⑩に対しては，(1)留学生の語学を学ぶ姿勢，(2)日本に関する知識や語学力に刺激を受け，自身の姿勢を振り返ったり，今後への意欲を述べる記述が多く見られた。以下，表 7 に結果の一部を示す。

表７　日本語を習得しようとしている留学生を見て感じたこと

ﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ	ﾃﾞｨﾒﾝｼｮﾝ	代表的なコメント
留学生の姿勢	驚き・称賛	・平凡かもしれませんがやはり，皆のやる気にすごい！と思いました(O-1)
		・積極的に話し，日本語を習得しようとする姿勢にはとても感銘を受けました(A-2)
		・他国の言葉を勉強して，他国に留学するとは，よほどの行動力がないと出来ないことだと思います(U-2)
	刺激	・私は，留学生が本当に真剣に日本語を習得したいと頑張っている姿にとても刺激を受けました(E-1)
	自分の姿勢・振り返り	・私は，外国語を話そうとするとためらってしまうことがよくあります(R-1)
		・それを見て，自分も外国語を習得するためには間違えることを恐れずに，自分から積極的に話すことが必要であると感じさせられました(J-2)
		・日本に興味を持っていることはもちろん，将来に向かって頑張っている姿は，私も頑張らなければいけないと言う気持ちになりました(Q-2)
	自分の学習意欲	・違う言語を話そうとゆっくりだけれども確実に努力している姿に学ぶことへの意欲がわいてきた(K-1)
	学習より思い出作り	・とは言え，語学学習よりも良き思い出づくりを至上命題にしている生徒がかなり多かったのも事実だと思います(H-4)

留学生の知識・語学力	驚き・称賛	・また，日本人以上に日本のことに詳しくて感心しました(L-2)
		・また，私はクラス１の担当でしたが，わずか１カ月で，驚異的に日本語が上達していたので本当に感心しました(G-3)
		・日本語学部に在籍されていない人でも，日本語を習得されていることに驚きました(P-1)
	日本人学生との違い	・中には３カ国語も習得している子もいて語学に対する学習意欲が私も含む日本の学生とは違うなと感じました (M-2)
	チューター活動に	・情けない話なのかもしれないけれど，留学生の日本語力に私の方が助けられたと感じました(N-3)
	自分の学習意欲	・日本で働きたいと言う留学生や，2，３カ国語話せる留学生を見て，自分ももっと言語の勉強を頑張ろうと思いました(F-1)
留学生の性格	親しみやすさ	・フレンドリーな留学生が多く，私の方が助かることが多かったです(L-1)
気づき	語学の必要性	・国際交流をするにあたって，語学の習得は当り前になって来ていると思いました(M-4)
今後の意欲	自己変革	・チューターを通して，このままではいけないなと思いました(M-3)
	学習意欲	・私ももっと勉強しないといけないなと逆に学ぶことが多かったです(G-4)
	語学・異文化学習への意欲	・私もほかの国の言葉を勉強して，話せるようになりたいと強く思いました (I-1)
		・私も英語や中国語を頑張りたいと思いました(E-2)
		・元々興味のあった韓国語を独学で勉強していたのですが，彼らの一生懸命日本語を覚えようとする姿を見てもっと頑張ろうとおもったし，他の国の文化や言葉にも興味を持つようになりました(B-1)
	広い視野・価値観	・私も彼らのように広い視野を持ちたいと感じました(U-3)
		・これからもっと留学生やいろいろな人とかかわって，色々な価値観や考え方に触れていきたいと思います(E-3)
	留学の希望	・短期でも留学したくなった(K-2)
		・私も短期留学したいと思っているので，皆からやる気をもらいました (O-4)

日本人の大学生ではあまり多くない多言語を習得している留学生（「３カ国語も習得している子 (M-2)」(他２名)「日本語学部に在籍されていない人でも，日本語を習得 (P-1)」) や，日本人学生があまり経験がないであろう初級外国語の集中コースの成果(「わずか１カ月で，驚異的に日本語が上達していた(G-3)」)にふれ，驚き，感心している記述が多くあった。ここから「私もほかの国の言葉を勉強して，話せるようになりたい (I-1)」，「私も英語や中国語を頑張りたい (E-2)」という外国語学習への意欲につながっていると思われる。

また「積極的に話し，日本語を習得しようとする姿勢 (A-2)」，「違う言語を話そうとゆっくりだけれども確実に努力している姿 (K-1)」など，日本国内の外国語学習ではあまり見られない (かもしれない) 外国語への学習姿勢にも多くのチューターが言及していた。

こうした留学生の学習姿勢や語学力にふれた結果が，質問③の「留学したいと思ったか」という質問の結果にも反映されていると考えられる。

質問⑪「プログラムやスタッフに提案やアドバイス」

質問⑪には，様々な観点から提案が寄せられた。以下，表８に結果の一部を示すが，ここでは以下の３点について触れる。

まず，移動手段（自転車の貸与）の問題であ

るが，2011 年度終了時にも今後の検討事項として挙げられ，2012 年でも安全性や台数の確保の問題で見送られた課題である。毎年，留学生の宿舎は徒歩圏内の家具付き民間アパートを借り上げているが，山口の交通事情や 7～8 月の猛暑の中の徒歩通学を考えると，今後も留学生からの要望は出され続けると考えられる。2012 年には留学生がチューターに個人的に自転車の貸与を求めるケースなども散見されたことから，2013 年度に向けて改めて対応の検討が必要と考えられる。

次に週末のスケジュールに関してであるが，例年，サマプロ開始後１週めの週末が期間中唯一の連休に当たり，２週め以降の週末は，毎週イベントが入るため，１週めは留学生の自由行動のために敢えて空けていた。しかしプログラム中に一部の参加留学生に聞き取りを行った結果では，まだ日本に来て日が浅いこの連休を必ずしも有効に過ごせていない留学生も多かった。「仲良くなるには初めが肝心だと実感(B-1)」「初めの方に･･･ゆっくり話す時間を取れたらいい(N-1)」といった意見や，「チューター全員が参加できるイベント(C-1)」という要望に応えられる可能性がある曜日は週末だけと考えられることから，今後，第一週めの週末の使い方については，検討が必要と考えられる。

３つめは日本語に関する要望であるが，2012 年度の特に上級クラスにおける宿題の多さは，参加者からも指摘されており，2013 年度は検討されるべきである。また質問⑨のチューター活動の難しさで日本語の説明を挙げたが多かったことから，「日本語文法のプリントをチューターにも(F-1)」といった細かな工夫や，「チューターとサマプロの先生同士の交流も(K-4)」といった教員とチューターの意志疎通の場の設置も解決策のひとつとして考えられる。

例えば神戸大学夏期日本語日本文化研修プログラムの事例では，参加する日本人学生（サポーター）には事前講義を行っており，これについて水野他(2012)では「必要な知識や心構えを身に付けさせる事前教育としての役割が大きいが，同時に，日本語・日本文化教育，異文化交流などの概論の授業としても機能している」とある。神戸大学の場合，この事前教育を事前講義，サポーター活動を実習として位置づけ，一部学部の単位取得科目となっている。

本サマプロでは，チューター活動は謝金の対象となり，神戸大学とはシステムも役割も異なるが，本サマプロでも例えば開始前に前年度のチューターによる経験やアドバイス，日本語教員から授業の概要や留学生の質問への答え方などについて簡単な講習会だけでも開催されると，チューターの開始当初の戸惑いや負担が軽減されると思われる。

また 2012 年度は，平日は午前・午後ともスケジュールが組まれ，開催中は教員とチューターの留学生に接する時間帯はほぼすれ違っており，ゆっくりとコミュニケーションできる時間がほとんどなかった。今後も同様に実施される場合には，両者の交流が可能となる方法をシステムとして考えることが大切と思われると同時に，現実的には多くの時間も取れないであろうことから，事前の講習会で，まず両者のコミュニケーションを図り，信頼関係を築き上げておくことは大変重要と考えられる。

表 8　　プログラムやスタッフに提案やアドバイス

ﾗﾍﾞﾙ	ﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ	ﾃﾞｨﾒﾝｼｮﾝ	代表的なコメント
生活	移動手段	配慮	・留学生から移動手段について良く聞かれていたので，配慮出来ることがあれば配慮して頂けたらと思いました(Q-1)
		自転車の貸与	・留学生全員分の自転車を用意するのは不可能だと思いますが，何台か

			貸出してあげると留学生も喜ぶと思います(G-2)
プログラム	事前準備	参加者プロフィール	・プロフィールに名前の振り仮名をふってほしい(K-2)
	期間	期間の長期化	・思い切って日本語３ヶ月コースでも作ってみてはどうでしょうか(H-1)
	スケジュール	週末の使い方	・第一週の休日を全てフリーにするのではなく，何らかのイベントを行った方がいいと思う(C-1)
		試験日程	・J-CAT の前の日にちょうちん祭りが有るのもちょっとまずいと思います(H-1)
	イベント	時間と場所の確保	・チューターと留学生がより仲良くなれるようなイベントを実施するために時間と場所を確保して頂ければよかったと思います(B-1)
	教員との交流	チューターと教員の交流	・チューターとサマプロの先生同士の交流もしてほしい(K-4)
チューター制度・チュートリアル実施	チューター	お知らせメール	・チューリアルの担当の前の日にはメールでお知らせをいただきとても有難かったです(P-1)
	心得	ニーズへの対応	・留学生が求めているものをしっかりと把握して，それを実現できるようにサポートが出来るといいなと思います(D-1)
	募集方法	参加可能曜日	・チューター募集のチラシにはチューターをするのは主に３コマ目と書いてありましたが，実際には３コマ目が開いてなくてもチューターをすることが出来るように感じました。３コマ目が開いていないという理由でチューター応募を断念した人を何人か見たので，それでも良いようであれば，応募条件を変えてもらえたらなと思いました(J-A)
	日本語	チューター用プ論と配布	・授業などで配られた日本語文法のプリントをチューターにも配ってもらえるとありがたいです(F-1)
		宿題	・日本語の習得も大切だが，もう少し宿題を減らすことで，より日本の若者文化を学べるのではないかと感じた(T-1)
			・チュートリアルの時間で宿題の補助を全力で行い，放課後は自由に時間を使えるように出来たらなと思います(A-3)

質問⑫「その他，感想などを自由に」

質問⑫については，多くのチューターが(1)感想（楽しかった，参加して良かった）や(2)参加できたことやスタッフへ感謝の言葉，(3)経験から得た今後の希望・意欲などについて記述していた。以下，表９に結果の一部を示す。

表９　その他，感想などを自由に

ﾗﾍﾞﾙ	ﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ	ﾃﾞｨﾒﾝｼｮﾝ	代表的なコメント
感謝	感謝	参加できたこと	・チューターのお仕事をさせて下さって本当にありがとうございました(I-1)
			・このような素敵な出会いのきっかけを作っていただき本当にありがとうございました(O-9)
		スタッフの対応	・先生方や職員の方々も優しく接して下さり，イベントなどを行う上でもご協力をいただきとても助かりました(L-2)
			・また，山口大学のスタッフの方々には，たくさんのご迷惑をおかけしましたが，いつも丁寧に対応して下さり，本当に有難く思っています(G-3)
		留学生・チューターに	・留学生の皆，チューターの皆，職員さん皆に感謝の気持ちでいっぱいです(E-8)
感想	喜び・楽しさ	異文化交流の喜び	・異文化の人々と交流するのがこんなにも楽しいことなのだと身をもって体験すること出来たと思います(B-2)
			・色々な所に行ったり，恋ﾊﾞﾅをしたり，冗談を言い合って，たくさん笑ったこの一カ月は絶対に忘れることのできないものとなりました(O-6)
		友達を作る	・ですが，この一カ月皆と同じ時間を過ごしたことで言葉や国境を越えて，本当に仲良くなれたと思っています(O-5)

			・たくさんの友達ができ，連絡を取り合っています(K-4)
	予想と実際	交流への不安	・チューターをするにあたって，初めはとても不安でしたが，いざやってみると楽しいことの方が多くて，とてもいい経験になりました(U-2)
		人間関係	・一か月と言う短い期間では思うほど深い関係にはならないと思っていましたが，日々濃い時間を過ごすことができ，別れがさみしかったです(K-3)
		チューターの役割	・最初は単に日本語を教えるだけのことだと思っていましたが，いざ終わってみたら別れるのが名残惜しいほど留学生の方々とこの一ヶ月間を通して，様々な経験をすることが出来ました(B-1)
	プログラム前後	プログラム前	・私にとって外国人との交流と言うのは全く身近なことではなく，ほとんど経験のないことでした(N-1)
		プログラム初期とその後	・留学生と初めて話した日，私は乗馬部の見学の時でしたが，とても硬くなり，話題を変えるのに必死で，こんなのやっていけるのだろうかと先行きを少し憂鬱に感じました(N-3)
	チューターとしての経験	最初の難しさ	・最初は留学生との接し方やアドバイスが分からなくて戸惑いました(E-2)
		チューター同士の交流	・また，チューターの皆さんともこの一カ月で仲良くなれ，チューターの中には留学経験のある人や，国際交流への高い意識が有る人が多くて私自身，すごく感化されたし，尊敬できる方々に出会うことが出来，世界が広がったように思います(O-8)
			・チューター同士での交流もとても深まって，大学院の先輩方など普段は接する機会のない方もたくさんお話が出来て，良い出会いが出来たと思います(P-2)
感想	留学生の様子を見て	・接し方	・今まで話していなかったような留学生でさえ初めてでも気軽に声をかけてくれて，その雰囲気が心地よく感じました(N-5)
		・語学力の進歩	・最終日に近づくにつれ，日本語の会話が出来るようになり，私も負けてられないなと毎日いい刺激を受けていました(M-8)
		留学生の気持ちの推測	・留学生がハードスケジュールとたくさんの宿題に苦戦して，チュートリアルの時間にぐったりとしている時もあったり，私自身がテスト期間にはなかなかチュートリアルに入れずもっと交流したかったなと思ったりもして，皆が楽しんで一か月を過ごせたか心配していたのですが，お別れ会の時に皆の涙を見たり，facebookに「帰りたくない」などと書いてあるのを見て，皆が山口での一か月を楽しんで過ごしてくれたことを安心しました(O-2)
	学んだこと	語学の勉強	・留学生の語学の補助をしましたが，逆に私の語学の勉強にもなりました(M-3)
		留学生から	チュートリアルの時間もとても楽しく，逆に私たちが学ばせてもらうことも多々ありました(A-2)
		様々な人の交流から	・留学生だけではなく，チューターの方々や職員の皆さん，先生から学ぶことも非常に多かったです(R-3)
		視野の広がり	・留学生と話す中で自分の視野が広がったり，様々な国の方と異文化交流が出来たりと良い経験が出来ました(L-4)
		学習意欲の向上	・また，日本語の新たな一面に気がついたり，英語や中国語，韓国語など外国語にも触れることが出来，自分自身の学習意欲の向上にもつながったと思います(R-2)
気づき	国際交流・異文化理解に必要なこと	自分の文化を知る	・自分が全然日本文化や日本の習慣を知らないことも分かり，国際交流・異文化理解をするにあたって，同時に自文化も詳しく知っておく必要があると気付くことが出来ました(J-2)
		語学力	・より親密な交流をするためには語学力を磨く必要があるなと思いました(M-9)
今後	希望すること	視野の広がり	・今回チューターをして自分自身も楽しみつつ，色々な価値観に触れたりすることができて，これからの大学生活をもっと広い視野で色んな事を見れるようになったり，価値観に触れて行きたいと思いました(E-7)

今後	希望すること	語学学習	・話せる英語を習得したいなと思いました(M-5)
			・文化の違いや言葉の違いに戸惑うこともあり，うまく伝えることが出来なく，もどかしく思うことも有りましたが，そのたびにもっと英語や違う言語をコミュニケーションがとれるくらい勉強したいと思いました(K-2)
		人との接し方	・今回の経験で学んだことや感じたことを活かして，これからも外国人だけでなく，人と交流するにあたってアクティブになれたらと思います(N-9)
			・このプログラムに参加して得ることのできた仲間との縁をこれからもずっと大切にしていこうと思います(0-10)
		国際交流	・また，この経験を大切にし，留学・国際協力ボランティアをしたいと言う思いが強くなりました(J-5)
			・私はこれからも国際交流に関わっていきたいと思っているので，積極的に色々なプログラムや行事に参加して行こうと思います(0-2)
		サマプロ参加	・機会があればまた来年も参加したいと思っております(D-3)
	留学生のコメント	山口への思い	・留学生が今でも山口に帰りたいと言っています(M-10) ・ある留学生は山口大学に長期の留学を考えているそうです(M-11)
評価	プログラム	プログラムの内容	・このプログラムは，日本の文化と山口のことをかなり満喫できる内容だったと思うので，これからもたくさんの外国の学生に参加して頂きたいと思いました(P-1)
	大学	大学の姿勢	・留学生に対してこのような温かいプログラムを毎年行っているこの大学がもっと好きになりました(M-14)

質問⑫では，質問⑩の回答と同様に，留学生の語学学習への姿勢や語学力から刺激を受けたという記述も多かった（「より親密な交流をするためには語学力を磨く必要があるなと思いました(M-9)」）が，留学生の人となりや交流の経験に言及する記述も多かった（「今まで話していなかったような留学生でさえ初めてでも気軽に声をかけてくれて(N-5)」等)。これらの記述の中には，当初はチューターの役割は限定的なもの（「最初は単に日本語を教えるだけのことだと思っていました（B-1)」，期間も１カ月と短い（「一か月と言う短い期間では思うほど深い関係にはならないと思っていました(K-3)」）と交流にあまり期待を抱いていなかったチューターも，(「いざ終わってみたら別れるのが名残惜しいほど(B-1)，「日々濃い時間を過ごすことができ，別れがさみしかった（K-3)」のように，期待以上の成果が得られたことが述べられている。

交流については，さらにチューター同士の交流についてもいくつか言及があり（「チューターの中には留学経験のある人や，国際交流への高い意識が有る人が多くて私自身，すごく感化されたし，尊敬できる方々に出会うことが出来，世界が広がったように思います(0-8)」）「留学生だけではなく，チューターの方々や職員の皆さん，先生から学ぶことも非常に多かったです(R-3)」)，結果的に本プログラムを通じて普段の学生生活では接することがない様々な人との交流が行われたと言える。

そのため⑫では今後についても「語学力」や「留学」，「国際交流」といった内容に加え，「色々な価値観に触れたりすることができて，これからの大学生活をもっと広い視野で色んな事を見れるようになったり，価値観に触れて行きたいと思いました(E-7)」「これからも外国人だけでなく，人と交流するにあたってアクティブになれたらと思います(N-9)」といった考え方や日常の生活態度に対する言及にまで及んだと考えられる。

「来年も参加したいと思っております(D-3)」(他３名)といった心強い記述も見られ，ぜひこうした経験のあるチューターがまた，その経験や反省を次回のチューターに繋げていってもらえたらと願っている。

６ まとめ

以上の結果から，本稿の目的である以下の２つの点について明らかになった点をまとめる。

① 留学生との交流を進めるための工夫・改善

具体的には，(1)プログラム開始前の講習会（チューター経験者や日本語教員による簡単なオリエンテーション）の開催や，(2)開催中のチューターと教員のコミュニケーションを図るシステムの創設，(3)早い時期からの，チューターを中心としたイベント企画や個人で自主的に行える交流活動の案内・周知，(4)効果的なスケジュールの検討(特に円滑なスタートが切れるための工夫)，などが挙げられる。

② 実際に交流を行って異文化理解や国際交流への関心などについて何を感じたか

多くのチューターが留学生の語学学習への積極的な姿勢，またその語学力に強い印象を受け，語学学習への意欲，留学への希望などを持っている。と同時にチューター同士などの交流も含めて，異なる価値観や広い視野の存在を知り，今後の自分の生活に生かして行きたい考える記述も見られた。

７　おわりに

今回，アンケート調査を通じて，教職員とは異なる視点から様々な指摘を得ることができ，プログラム改善に大変有意義であった。指摘は今後の改善に必ず活かして，プログラムをより良いものとしていきたい。

またアンケートの分析を通じて，改めて2012年度のチューター一人一人が真摯に役割を受け止め，積極的に参加していたこと，またチューター本来の役割を果たす以外に，有償・無償にこだわらずに意欲的に交流を求め，実行に移し，多くのことを感じ，学んでいることを改めて実感できた。

先述したとおり，本サマプロのチューターは，「留学生と共に学ぶ」という立場というより，留学生を迎え，留学生の学習や活動が円滑に進むことをサポートする立場であった。本サマプロのチューターもその責任を強く意識し，責任をもって果たしている様子がアンケートの回答からも明らかであった。チューターは，異なる言語や文化を持つグループの人間関係を調整し，言語や文化の説明に苦慮するなど，留学生と必ずしも「双方向」「対等」という役割ではなかったかもしれない。しかし留学生にとってチューターは明らかに教員とは異なる存在であり，チューターも留学生も，交流をしたい，友達を作りたいという思いは同じであったと言える。したがってチューターは，こうした活動を通じて理解し合える喜びや充実感，行動様式の違い，留学生から得られる刺激などを経験し，自身の学習態度や語学力についての振り返り，日本や日本文化についても知る重要性への気づき，今後の目標や学習意欲の向上など，まさに異文化交流による学びが行われていると考えられる。

今後も，調査を通じて得られた結果を2013年度以降のサマプロの改善に生かし，活発な学生交流が行われるより良いプログラムとなるよう努力していきたい。

（山口大学留学生センター　准教授）

【参考文献】

久木元恵2012,「短期日本語研修参加者の意識ーダイアリーの記述分析を通してー」『2012年度日本語教育学会研究集会（中国地区）予稿集』

水野マリ子，ハリソン・リチャード，高梨信乃2012,「日本語学習支援活動による意識変容について:神戸大学夏期日本語日本文化研修プログラムを中心に」『神戸大学留学生センター紀要』18 号，pp. 1-25.

戈木クレイビル滋子編 2008,『質的研究方法ゼミナール増補版』医学書院

【注】

1) 本サマプロには，実施当初より協定校の学生に加え個人応募も受け付けており， 2012 年に初めてスペイン・トルコからの個人応募 2 名を受け入れた。

2) 文化体験など各活動のチューター参加人数は，プログラム開始前に決められていたが，歓迎会，学習成果発表会（聴衆として参加），ちょうちん祭り，研修旅行，送別会は参加希望者は無償で参加でき，多くのチューターが自主的に参加した。このうち歓迎会と送別会にはできるだけ参加するよう事前に呼びかけた。

3) 7 月 3 日に実施したチューター説明会では，担当クラス別に着席し，大学からの諸連絡の後，グループごとに自己紹介，連絡先の交換などを行った。その際に 2011 年度サマプロではチューター自主企画（たこ焼きパーティー）が実施されたことを伝え，2012 年でもぜひ企画してほしい旨を伝え，計画を一任した。

4) 質問④に「どちらとも言えない」「あまり果たせなかった」と回答した 2 名の理由としては「チューターとしての仕事は，他の人から支持や注意を受けて初めて気づいたこともたくさんあったし，他にも寝坊など，周りの人たちに迷惑をかけたと思うから」「チュートリアルの参加日数が少なかったため」が挙げられていた。

5) サマプロに参加した留学生の希望者には，学生食堂「ボーノ」で一定期間定額で一日 3 食食事が可能なミールカードを販売しており，ほとんどの留学生がこれを利用していた。

【謝辞】この場をお借りしまして，2012 年サマプロ実施にご協力いただきました皆さまに心からお礼申し上げます。またアンケート調査にご協力いただきましたチューターの皆さん，配布・回収にご協力いただきました留学生支援室の皆さまにお礼申し上げます。